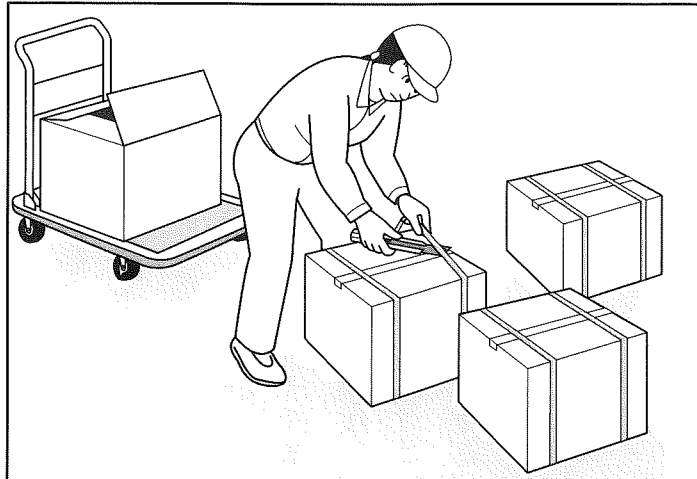


リスクアセスメント演習

リスクを評価して対策を考えよう

どんな危険性又は有害性がありますか？



《状況》段ボールに入った部品を取り出すため、日に3～4回、カッターナイフで梱包テープを切って開梱する作業。

- リスクアセスメントは、職場に存在する「危険性または有害性」(リスク)を把握して、その「程度」(リスクレベル)を明らかにし、この程度に応じて、リスクを除去・低減するために「必要な事項(対策等)」を決定するための手段です。
- リスク低減措置の実施(安衛法第28条2に基づき指針)
法令に定められた事項がある場合は必ず実施するとともに、次の優先順位で低減措置等の対策を実施します。
- ① 危険な作業の廃止・変更。有害性の低い材料等への代替
 - ② 工学的対策(インターロック、局所排気装置の設置等)
 - ③ 管理的対策(マニュアルの整備、教育・訓練等)
 - ④ 個人用保護具の使用

《リスク評価表の例》リスクの評価の方法は各種ありますが、下記の《例》を参考に実施して下さい。

No.	危険性又は有害性の特定	① 重大性	② 可能性	③ ポイント	④ リスクレベル	改善対策	対策後のリスク評価(予測)						
							① 重大性	② 可能性	③ ポイント	④ 対策後のリスクレベル			
1	カッターナイフの刃の近くを持って、刃を手前に向けて切っているので、刃が滑って指などを切創する。	6	4	10	IV	①刃がむき出しにならないタイプの「安全ひも切り」を使用する。	1	2	3	I			
						②カッターナイフの刃の進む方向に手を置かないなど、開梱作業の作業手順書を作成して教育し実行する。	3	2	5	II			
						③安全手袋(耐切創性手袋)を着用してカッターナイフを使用する。	3	4	7	III			

《リスク評価基準の例》

①災害の重大性

重大性	点数
致命傷	10
重傷	6
軽傷	3
微傷	1

②災害の可能性

可能性	点数
確実である	6
可能性が高い	4
可能性がある	2
ほとんどない	1

③リスクポイント	④リスクレベル	判定と改善対策等
10～16	IV	重大な問題があり、直ちに対策が必要
7～9	III	大きな問題があり、対策が必要
4～6	II	問題があり、見直し改善が必要
2～3	I	許容可能、残留リスクの措置を行う

合計評価値 = ①重大性 + ②可能性